

「食の安全・安心」についてのアンケート結果

県ではこれまでの食の安全・安心アクションプランを見直し、最近の食を取り巻く環境、県政モニターアンケート結果などを踏まえ、「滋賀県食の安全・安心推進計画」を策定し、引き続き食の安全・安心の確保のための取組を進めています。

県民の皆さんが食の安全・安心の確保に関して、日ごろ感じておられることをお聞きし、今後の施策に反映していくために、アンケートを実施しました。

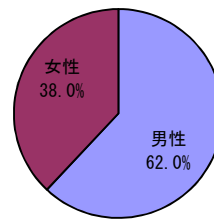
- ★ 実施時期：平成26年5月
- ★ 対象者：県政モニター 398人
- ★ 回答数：321人（回収率：80.7%）
- ★ 担当課室：健康医療福祉部生活衛生課 食の安全推進室
（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

◆性別

項目	人数(人)	割合
男性	199	62.0%
女性	122	38.0%
合計	321	100.0%

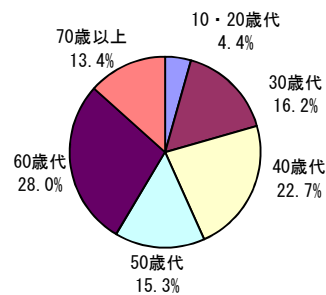
性別



◆年代

項目	人数(人)	割合
10・20歳代	14	4.4%
30歳代	52	16.2%
40歳代	73	22.7%
50歳代	49	15.3%
60歳代	90	28.0%
70歳以上	43	13.4%
合計	321	100.0%

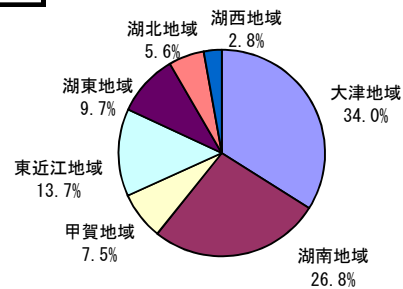
年代



◆地域

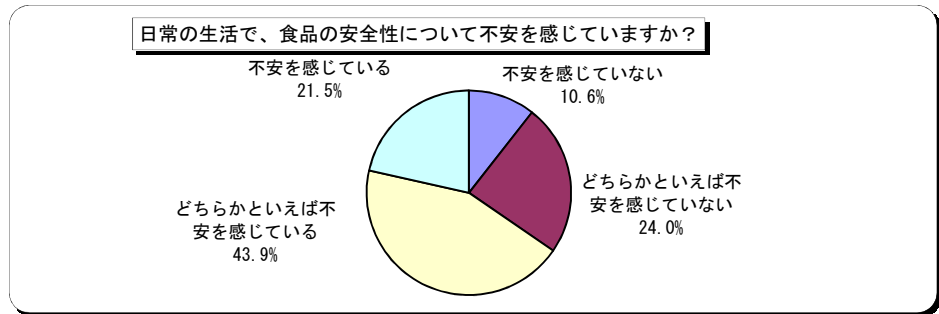
項目	人数(人)	割合
大津地域	109	34.0%
湖南地域	86	26.8%
甲賀地域	24	7.5%
東近江地域	44	13.7%
湖東地域	31	9.7%
湖北地域	18	5.6%
湖西地域	9	2.8%
合計	321	100.0%

地域



問1 日常生活で、食品の安全性について不安を感じていますか？（回答チェックは1つだけ）

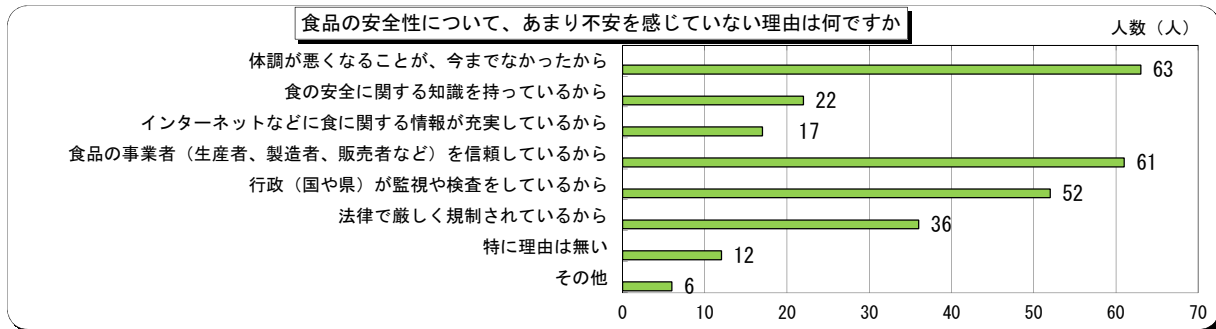
項目	人数(人)	割合
不安を感じていない	34	10.6%
どちらかといえば不安を感じていない	77	24.0%
どちらかといえば不安を感じている	141	43.9%
不安を感じている	69	21.5%
合計	321	100.0%



【問1で「1. 不安を感じていない」または「2. どちらかといえば不安を感じていない」と回答された方にお尋ねします。】

問2 食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか？（回答チェックはいくつでも可。n=111）

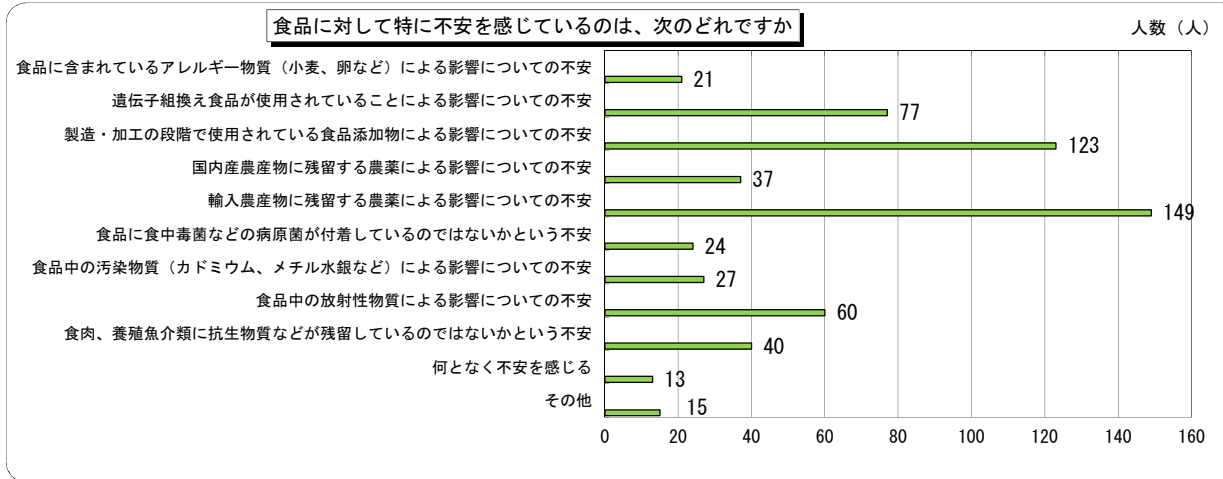
項目	人数(人)	割合
体調が悪くなるのが、今までなかったから	63	56.8%
食の安全に関する知識を持っているから	22	19.8%
インターネットなどに食に関する情報が充実しているから	17	15.3%
食品の事業者（生産者、製造者、販売者など）を信頼しているから	61	55.0%
行政（国や県）が監視や検査をしているから	52	46.8%
法律で厳しく規制されているから	36	32.4%
特に理由は無い	12	10.8%
その他	6	5.4%



【問1で「3. どちらかといえば不安を感じている」または「4. 不安を感じている」と回答された方にお尋ねします。】

問3 食品に対して特に不安を感じているのは、次のどれですか？（回答チェックは3つまで可。n=210）

項目	人数(人)	割合
食品に含まれているアレルギー物質（小麦、卵など）による影響についての不安	21	10.0%
遺伝子組換え食品が使用されていることによる影響についての不安	77	36.7%
製造・加工の段階で使用されている食品添加物による影響についての不安	123	58.6%
国内産農産物に残留する農薬による影響についての不安	37	17.6%
輸入農産物に残留する農薬による影響についての不安	149	71.0%
食品に食中毒菌などの病原菌が付着しているのではないかと不安	24	11.4%
食品中の汚染物質（カドミウム、メチル水銀など）による影響についての不安	27	12.9%
食品中の放射性物質による影響についての不安	60	28.6%
食肉、養殖魚介類に抗生物質などが残留しているのではないかと不安	40	19.0%
何となく不安を感じる	13	6.2%
その他	15	7.1%



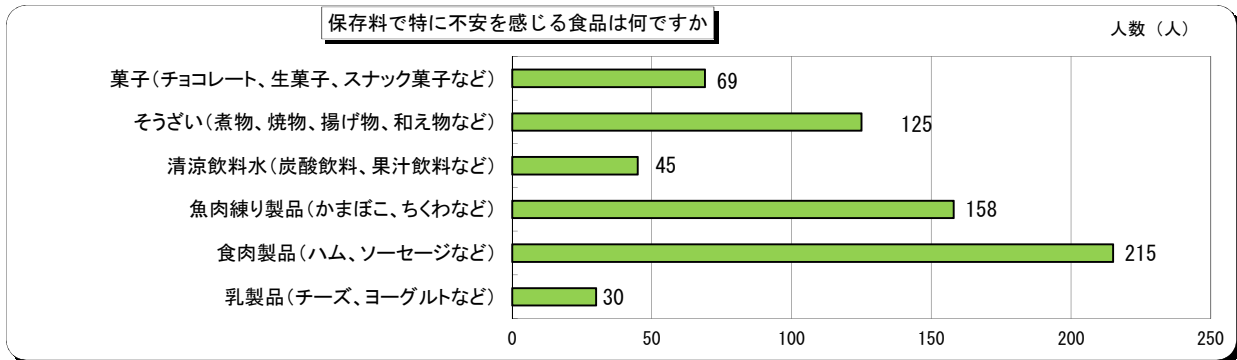
※以下、全員の方にお尋ねします。(n=321)

問4 不安を感じる食品について、以下の(1)～(7)の各項目について該当するものを選んでください。(回答チェックは各2つ)

【食品添加物】

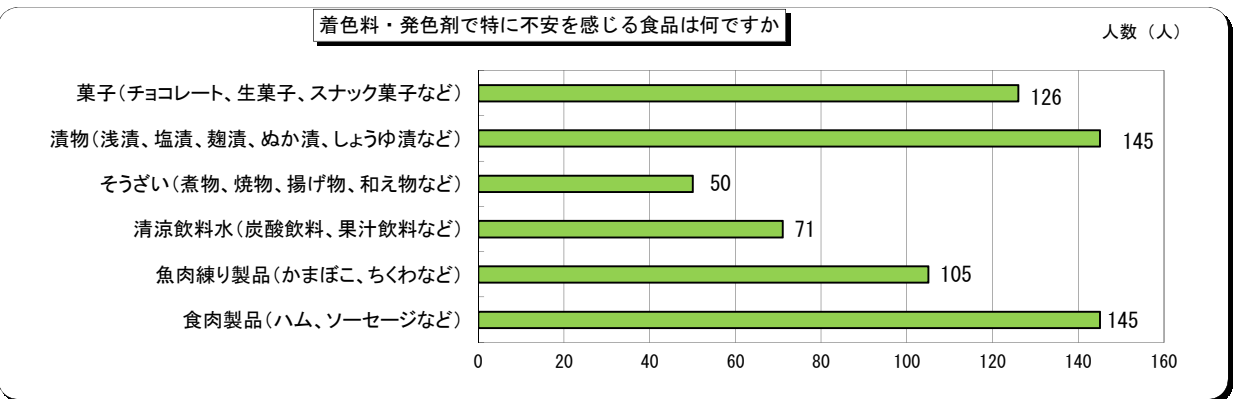
(1) 保存料で特に不安を感じる食品は何ですか。

項目	人数(人)	割合
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	69	21.5%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	125	38.9%
清涼飲料水(炭酸飲料、果汁飲料など)	45	14.0%
魚肉練り製品(かまぼこ、ちくわなど)	158	49.2%
食肉製品(ハム、ソーセージなど)	215	67.0%
乳製品(チーズ、ヨーグルトなど)	30	9.3%



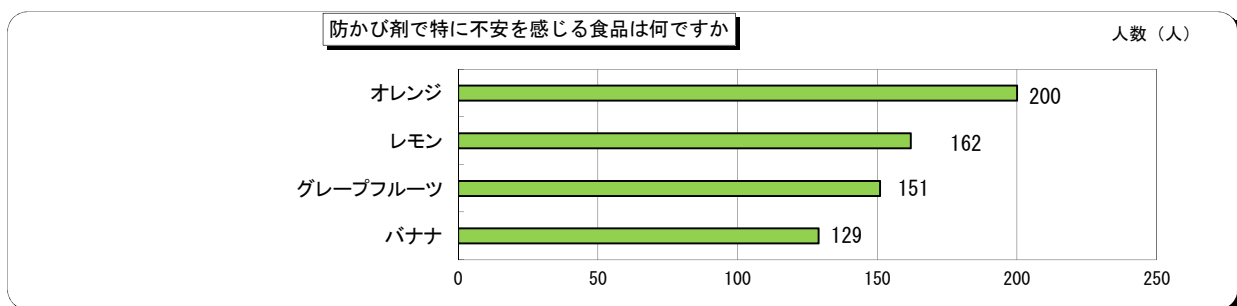
(2) 着色料・発色剤で特に不安を感じる食品は何ですか。

項目	人数(人)	割合
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	126	39.3%
漬物(浅漬、塩漬、麹漬、ぬか漬、しょうゆ漬など)	145	45.2%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	50	15.6%
清涼飲料水(炭酸飲料、果汁飲料など)	71	22.1%
魚肉練り製品(かまぼこ、ちくわなど)	105	32.7%
食肉製品(ハム、ソーセージなど)	145	45.2%



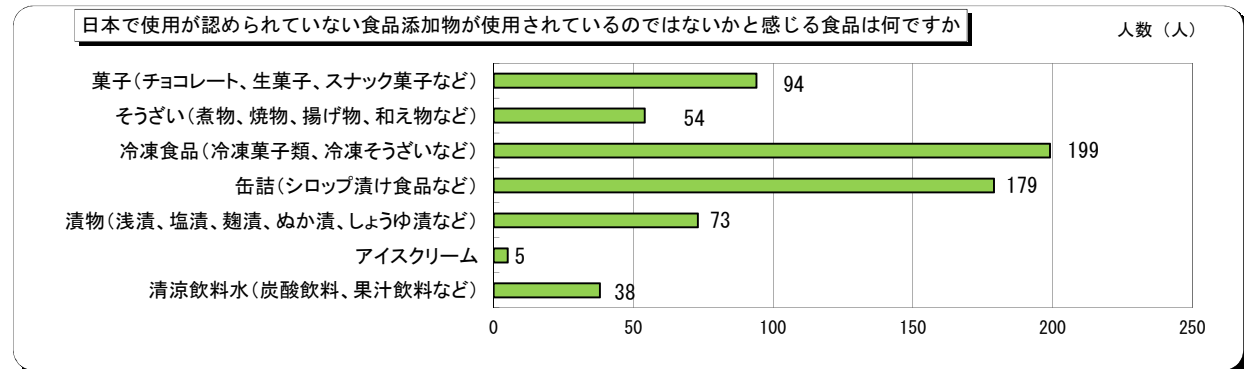
(3) 防かび剤で特に不安を感じる食品は何ですか。

項目	人数(人)	割合
オレンジ	200	62.3%
レモン	162	50.5%
グレープフルーツ	151	47.0%
バナナ	129	40.2%



(4) 日本で使用が認められていない食品添加物が使用されているのではないかと感じる食品は何ですか。

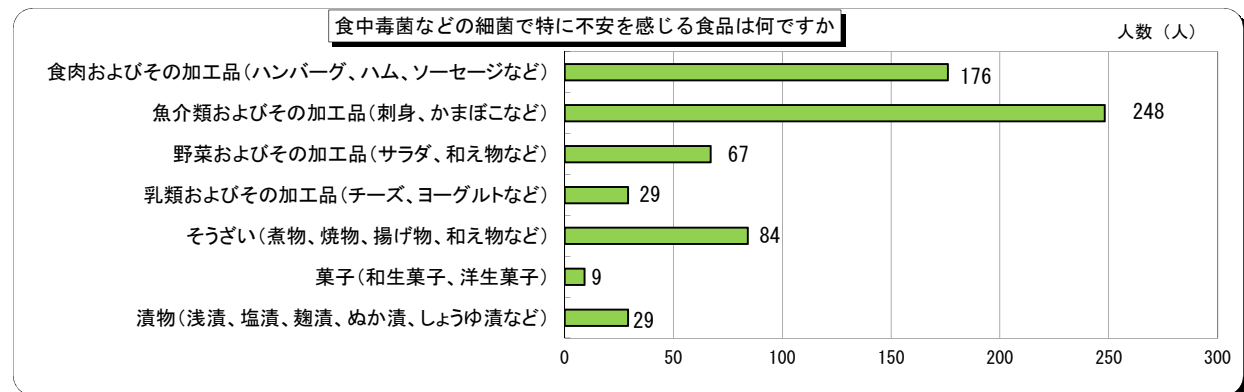
項目	人数(人)	割合
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	94	29.3%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	54	16.8%
冷凍食品(冷凍菓子類、冷凍そうざいなど)	199	62.0%
缶詰(シロップ漬け食品など)	179	55.8%
漬物(浅漬、塩漬、麴漬、ぬか漬、しょうゆ漬など)	73	22.7%
アイスクリーム	5	1.6%
清涼飲料水(炭酸飲料、果汁飲料など)	38	11.8%



【食中毒菌等】

(5) 食中毒菌などの細菌で特に不安を感じる食品は何ですか。

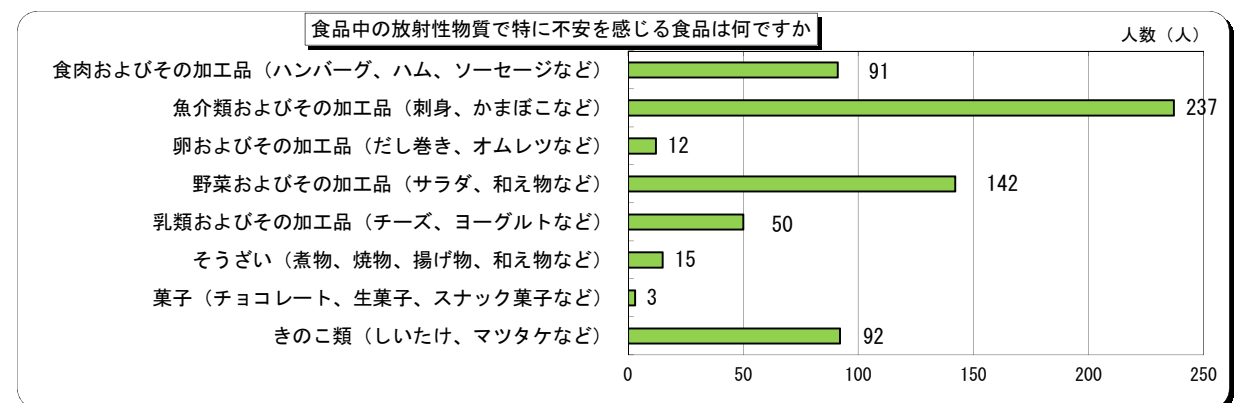
項目	人数(人)	割合
食肉およびその加工品(ハンバーグ、ハム、ソーセージなど)	176	54.8%
魚介類およびその加工品(刺身、かまぼこなど)	248	77.3%
野菜およびその加工品(サラダ、和え物など)	67	20.9%
乳類およびその加工品(チーズ、ヨーグルトなど)	29	9.0%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	84	26.2%
菓子(和生菓子、洋生菓子)	9	2.8%
漬物(浅漬、塩漬、麴漬、ぬか漬、しょうゆ漬など)	29	9.0%



【放射性物質】

(6) 食品中の放射性物質で特に不安を感じる食品は何ですか。

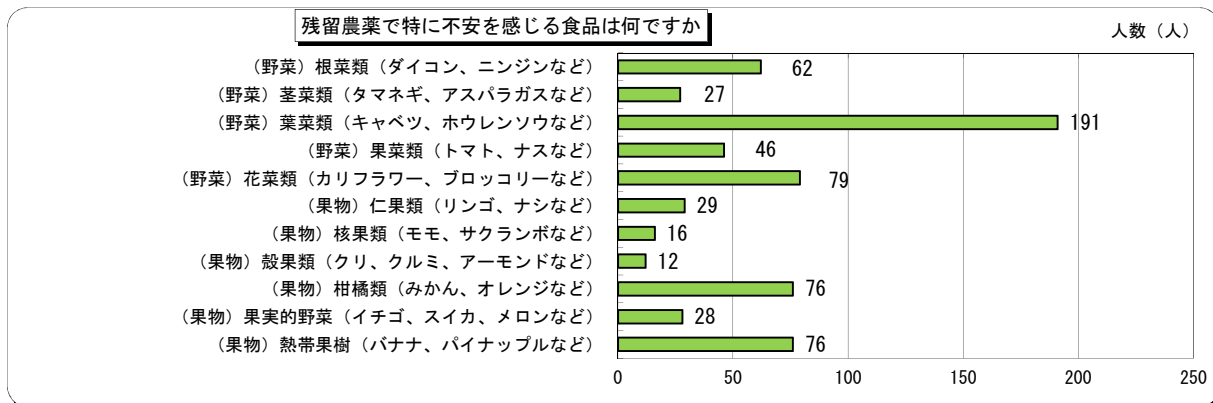
項目	人数(人)	割合
食肉およびその加工品(ハンバーグ、ハム、ソーセージなど)	91	28.3%
魚介類およびその加工品(刺身、かまぼこなど)	237	73.8%
卵およびその加工品(だし巻き、オムレツなど)	12	3.7%
野菜およびその加工品(サラダ、和え物など)	142	44.2%
乳類およびその加工品(チーズ、ヨーグルトなど)	50	15.6%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	15	4.7%
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	3	0.9%
きのこ類(しいたけ、マツタケなど)	92	28.7%



【残留農薬】

(7) 残留農薬で特に不安を感じる食品は何ですか。

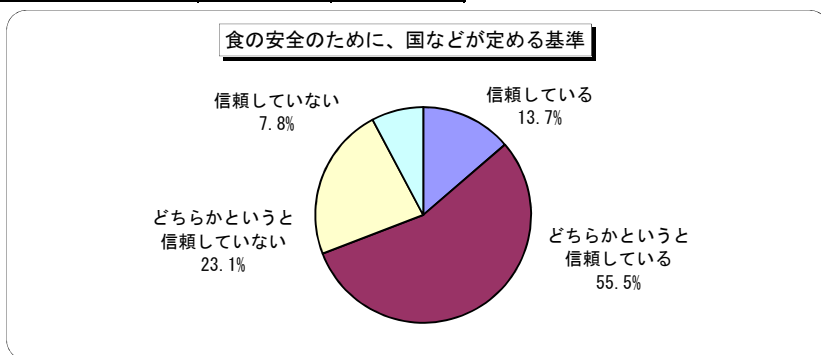
項目	人数(人)	割合
(野菜)根菜類(ダイコン、ニンジンなど)	62	19.3%
(野菜)茎菜類(タマネギ、アスパラガスなど)	27	8.4%
(野菜)葉菜類(キャベツ、ホウレンソウなど)	191	59.5%
(野菜)果菜類(トマト、ナスなど)	46	14.3%
(野菜)花菜類(カリフラワー、ブロッコリーなど)	79	24.6%
(果物)仁果類(リンゴ、ナシなど)	29	9.0%
(果物)核果類(モモ、サクランボなど)	16	5.0%
(果物)殻果類(クリ、クルミ、アーモンドなど)	12	3.7%
(果物)柑橘類(みかん、オレンジなど)	76	23.7%
(果物)果実的野菜(イチゴ、スイカ、メロンなど)	28	8.7%
(果物)熱帯果樹(バナナ、パイナップルなど)	76	23.7%



問5 食品にたずさわる関係者等に対する信頼感についてお尋ねします。(回答チェックは各1つ)

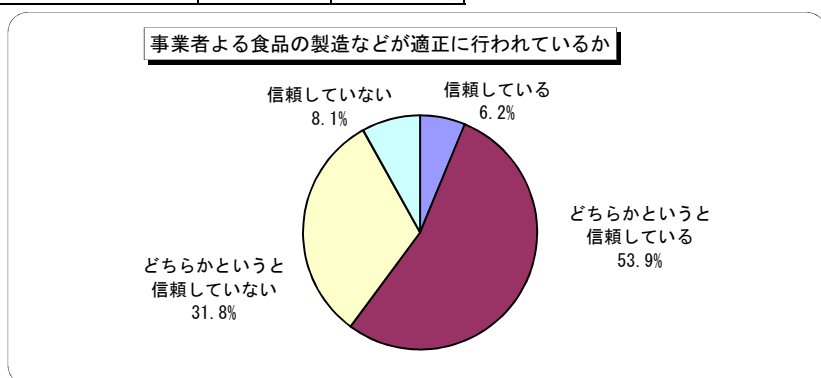
(1) 食の安全のために、国などが定める基準(放射性物質の基準、食品添加物の使用基準など)について

項目	人数(人)	割合
信頼している	44	13.7%
どちらかという信頼している	178	55.5%
どちらかという信頼していない	74	23.1%
信頼していない	25	7.8%
合計	321	100.0%



(2) 事業者による食品の製造などが適正に行われているかについて

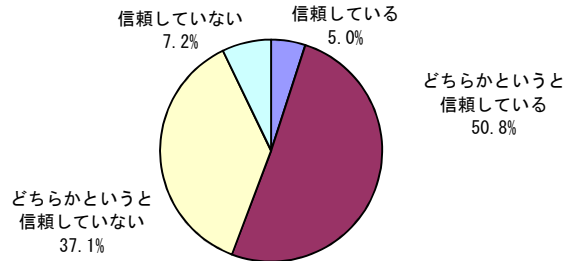
項目	人数(人)	割合
信頼している	20	6.2%
どちらかという信頼している	173	53.9%
どちらかという信頼していない	102	31.8%
信頼していない	26	8.1%
合計	321	100.0%



(3) 食品の流通や販売・保管が適切に管理(保管等)されているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	16	5.0%
どちらかという信頼している	163	50.8%
どちらかという信頼していない	119	37.1%
信頼していない	23	7.2%
合計	321	100.0%

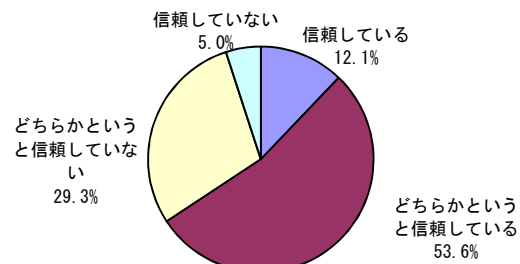
流通や販売・保管の段階で、適正に管理されているかどうか



(4) 食品の表示について

項目	人数(人)	割合
信頼している	39	12.1%
どちらかという信頼している	172	53.6%
どちらかという信頼していない	94	29.3%
信頼していない	16	5.0%
合計	321	100.0%

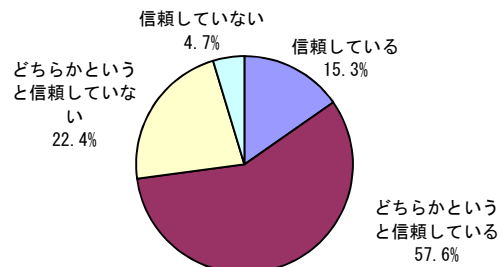
食品の表示について



(5) 県が行う食品の安全性確保についての取組(飲食店などの立入検査や食品の検査等)について

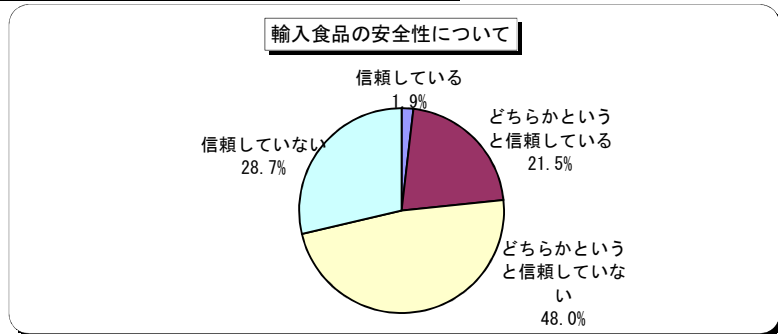
項目	人数(人)	割合
信頼している	49	15.3%
どちらかという信頼している	185	57.6%
どちらかという信頼していない	72	22.4%
信頼していない	15	4.7%
合計	321	100.0%

国や県が行う食品の調査・検査や事業者への指導について



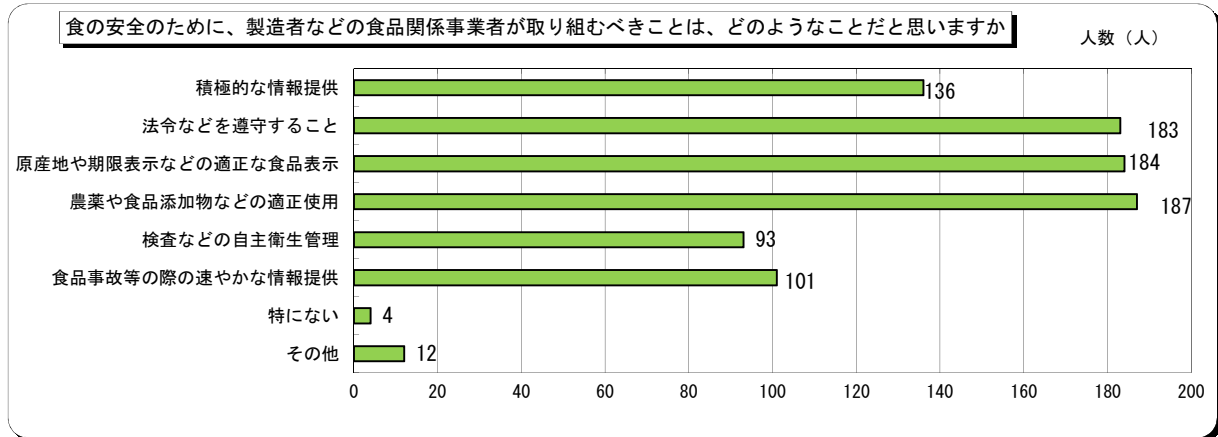
(6) 輸入食品の安全性について

項目	人数(人)	割合
信頼している	6	1.9%
どちらかという信頼している	69	21.5%
どちらかという信頼していない	154	48.0%
信頼していない	92	28.7%
合計	321	100.0%



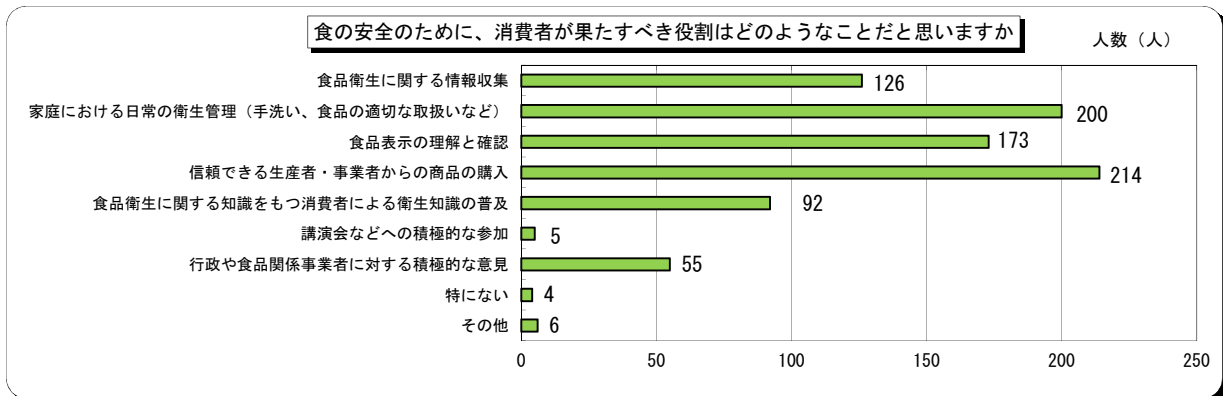
問6 食の安全のために、製造者などの食品関係事業者が取り組むべきことは、どのようなことだと思いますか？
(回答チェックは3つまで可。n=321)

項目	人数(人)	割合
積極的な情報提供	136	42.4%
法令などを遵守すること	183	57.0%
原産地や期限表示などの適正な食品表示	184	57.3%
農薬や食品添加物などの適正使用	187	58.3%
検査などの自主衛生管理	93	29.0%
食品事故等の際の速やかな情報提供	101	31.5%
特にない	4	1.2%
その他	12	3.7%



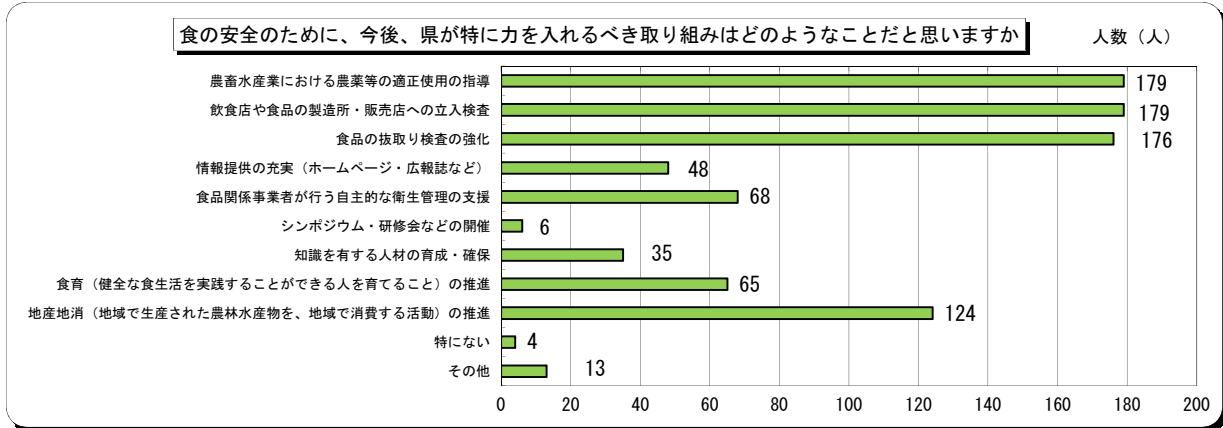
問7 食の安全のために、消費者が果たすべき役割はどのようなことだと思いますか？ (回答チェックは3つまで可。n=321)

項目	人数(人)	割合
食品衛生に関する情報収集	126	39.3%
家庭における日常の衛生管理(手洗い、食品の適切な取扱いなど)	200	62.3%
食品表示の理解と確認	173	53.9%
信頼できる生産者・事業者からの商品の購入	214	66.7%
食品衛生に関する知識をもつ消費者による衛生知識の普及	92	28.7%
講演会などへの積極的な参加	5	1.6%
行政や食品関係事業者に対する積極的な意見	55	17.1%
特にない	4	1.2%
その他	6	1.9%



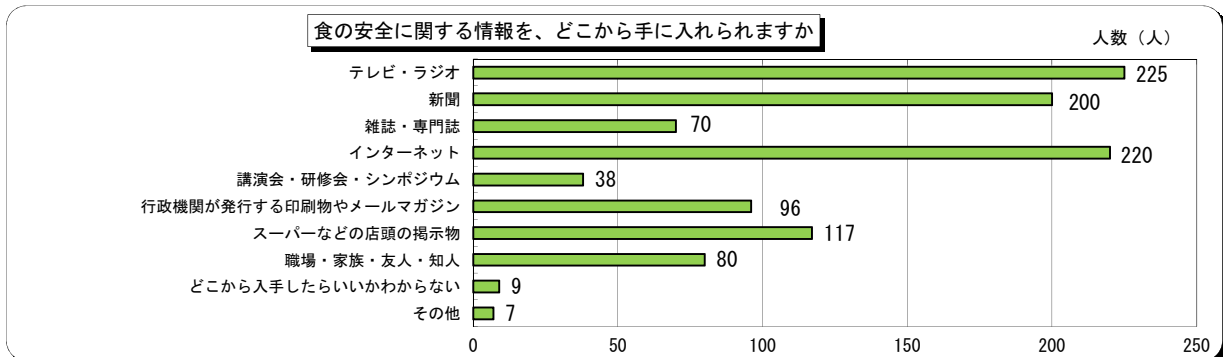
問8 食の安全のために、今後県が特に力を入れるべき取り組みはどのようなことだと思いますか？（回答チェックは3つまで可。n=321）

項目	人数(人)	割合
農畜水産業における農薬等の適正使用の指導	179	55.8%
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査	179	55.8%
食品の抜き取り検査の強化	176	54.8%
情報提供の充実(ホームページ・広報誌など)	48	15.0%
食品関係事業者が行う自主的な衛生管理の支援	68	21.2%
シンポジウム・研修会などの開催	6	1.9%
知識を有する人材の育成・確保	35	10.9%
食育(健全な食生活を実践することができる人を育てること)の推進	65	20.2%
地産地消(地域で生産された農林水産物を、地域で消費する活動)の推進	124	38.6%
特にない	4	1.2%
その他	13	4.0%



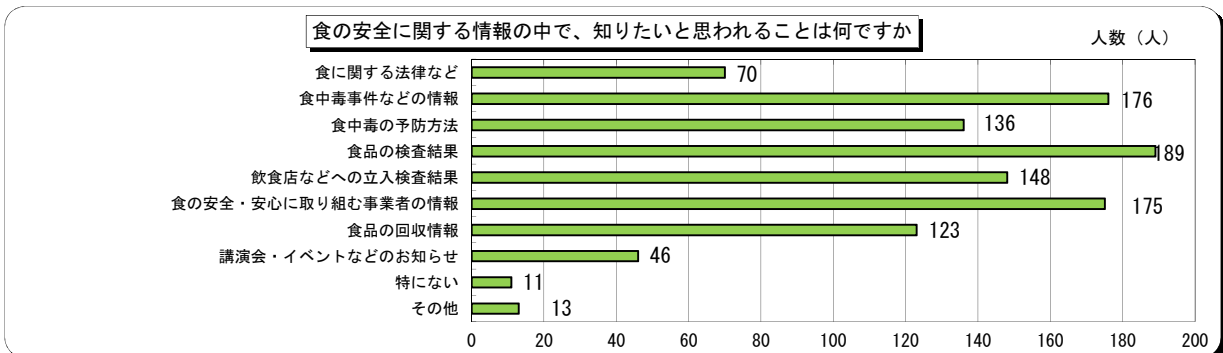
問9 食の安全に関する情報を、どこから手に入られますか？（回答チェックはいくつでも可。n=321）

項目	人数(人)	割合
テレビ・ラジオ	225	70.1%
新聞	200	62.3%
雑誌・専門誌	70	21.8%
インターネット	220	68.5%
講演会・研修会・シンポジウム	38	11.8%
行政機関が発行する印刷物やメールマガジン	96	29.9%
スーパーなどの店頭の掲示物	117	36.4%
職場・家族・友人・知人	80	24.9%
どこから入手したらいいかわからない	9	2.8%
その他	7	2.2%



問10 食の安全に関する情報の中で、知りたいと思われることは何ですか？（回答チェックはいくつでも可。n=321）

項目	人数(人)	割合
食に関する法律など	70	21.8%
食中毒事件などの情報	176	54.8%
食中毒の予防方法	136	42.4%
食品の検査結果	189	58.9%
飲食店などへの立入検査結果	148	46.1%
食の安全・安心に取り組む事業者の情報	175	54.5%
食品の回収情報	123	38.3%
講演会・イベントなどのお知らせ	46	14.3%
特にない	11	3.4%
その他	13	4.0%



問11 あなたが、食の安全性について、日頃感じていることを自由に記述してください。（400字以内）

【主な意見】

・加工食品の増加に伴い、それぞれの材料の原産地や生育段階の情報を得られないことを不安に感じています。また諸外国、特に欧米ではすでに使用禁止になっている農薬等が依然日本で使用可能なことも不安に感じています。

・輸入品など、県だけで対応できないものは、積極的に国に働きかけてほしい。また、滋賀県だけで動かずに、他の県とも連携すればいいと思う。

・食の安全については、県の取り組みも積極的であり、マスコミを通じ知らされていると思う。生産者においても農薬の使用について安全を考えた使用を感じられる。消費者や流通段階で、見た目を重視した傾向が強く感じられる。昔から「虫も食わない野菜は毒」といわれるが、消毒、農薬の過度の使用を警告したものであり、消費者もそういう意識をもっと持つべきと考えます。

・牛丼やファストフードなど、すごく安いと思います。卵も価格が変わらず安いと思います。安いのは確かにうれしいのですが、安くても売れる美味しさを追及するあまり、安全は後回しになっているのかなと感じます。配合飼料など抗生物質が入っていて大丈夫なのかなとか。牛は、草食動物だから草を食べてると思っていたのに、違うと知ったときはショックでした。知らないことは、たぶん沢山あるんでしょうね。安全は当たり前だと思込んでしまっていますし。外食産業の使っている原材料なんかも、何なのか、考えると怖くなります。肉となってるけど、本当に肉なのか、混ぜものが入っているのか、どんな加工をしているのか。検査を強化したり情報を公開していくことも大事だと思いますが、食に対する考え方も変えていけたらと思います。

・食品の流通がグローバル化しているので自国だけでなく各国の状況や法規制を鑑み、今後何を禁止・規制するのか。またそれを常にチェックする第三者機関の体制・システムの充実、管理、監督そして結果の情報開示が必要と感じています。国、県それぞれのレベルで進めていただくことを希望します。

・夏場に向かい食中毒予防のため飲食店等々の立ち入り検査の推進

・消費者としては、公表された情報を信用するしかありません。そのため公共機関は、正しい情報を発信できるように努力して頂きたいと思う。

・メディアの報道の仕方に疑問を感じる人が多いです。受け取り方によっては、一部の商品に不安を覚えるような煽りが多いと思います。消費者も、過敏になりすぎている部分があると思います。その為に無駄な廃棄に繋がっているのではないのでしょうか。情報を発信する側、受け取る側、どちらも学ぶべき部分はまだまだ多いと思います。

・消費者が持つべき食の安全に対する意識と、行政が持つべき食の安全に対する意識は違う。行政は専門的な知識や根拠に基づいて、県外、国外から持ち込まれる食の検査を徹底する。消費者では不可能な、専門的な知識や高価な機械が必要な部分を受け持つべき。対して消費者は、購入後の保存方法や、滅菌の方法など、逆に行政が介入し得ない、個人で守る知識をつけるべき。そして行政は、それを促す役割があるだろう。行政は、消費者が産地などの違いをなるべく意識しなくて済むような信頼性の高い検査を行うべきで、その内容ももっとアピールするべきである。

・今、食の安全安心が問われており、県の指導と消費者の正しい知識が求められています。今後も積極的に取り組み、広報・講演会などで推進し、情報の共有をお願いします。

・子供にアレルギーがあり、原材料表示を見てから購入していますが、アレルギー表示があつたりなかったりして困っています。全てのものにアレルギー表示をしてもらえるとありがたいです。社会が便利になりすぎて、何が使われているのかわからないものを口にする機会が増えてきています。大丈夫？と疑わなくてもいいような社会になるといいのですが。

・食品の自給率は、40パーセントを割っている。それゆえに、国産品の業者管理は、もとより、輸入品の安全性について、力を注ぐことが重要である。輸入業者の定期的検査基準の立入を厳守することが必要である。また、輸入品の業者関係の国別の情報交換連絡を持たせることも、必要と思う。つまり、食品は、国産品、海外品、同じように検査基準を徹底するように、することが大切である。

・食の安全はその物を信頼するか、否かだと思います。日々食する食品については安全を前提に、購入し食していますが、国や地方自治体の法整備によって守られているとわたしは思っています。しかし物事には限度があり、すべてを行政にゆだねるのは不可能であるとおもうので、消費者の意識が重要だと思います。

・毎日の食卓に並ぶ食品を安心できる国産ばかりにしようと思えばなかなか大変なことで国産にこだわらずに買い物をして食している。それは日本の行政を信じ安全安心なものしか販売されていないと思い買い物をしているからです。

・生産者の顔が見えるように表示されているものがあるが、果たして本当にそれが安全なのか？消費者も見た目に綺麗とかを望むから、どうしても売れるものを出そうとするので、消費者も考えるべきで、商品の知識を学ぶべきである。

・受身でなく私達も積極的に安全な食を求めて行動していく事が大切だと思っています。日々家族の口に入るものは直接健康に繋がりますので、選ぶ自分にも大きな責任があると思っています。また安全で私達が求める農産物を提供して下さる生産者の方々には感謝と共に喜びを持って対価をお支払いし、繋がりをもっていきたくと思っています。自身でも情報を集め、自然栽培の作物を暮らしに取り入れるようになりました。滋賀県でも生産者がいらっしゃいますが、琵琶湖の汚染が進んできた為これまでの農地を手放し水源が清らかな場所に移転されるというお話でした。やはり全て繋がっているなと思います。安全な食を求めると森林・水源の保全整備が必須ですし、その他にもテーマは山ほどあると感じますが、それら全てが私達の暮らしの中の一つ一つの選択に繋がっていると思っていますので、無力感ではなく可能性を求めて暮らしていきたいです。

・製造者側をある程度信用はしていますが、食品添加物などを継続的に摂取した場合、一度なら許容範囲内でも、体内で蓄積されていった場合に引き起こされる影響などまできちんと考えられているのかなど、そういった安全性も知りたいです。また、放射線物質による汚染についても、きちんとした数値をもとに「これは安全です」という情報提供がほしいです。風評被害にあわれている農家さんもかわいそうですし、私達も安全なことがわかりさえすれば、おいしいお野菜やお魚を買いたいと思いますので。

・自身に食品アレルギーがあるので常時表示に注意している。安全が提供されるのは当然だが自分がきちんと知識を得ることが大事である。

・輸入食品の検査が十分されているか知りたい。

・今まで、食のことに安全だと思っていた。しかし、このようなアンケートをするということは、安全ではない可能性があるということだと感じた。その為、食の安全に対する取り組みをして頂きたいし、食を扱う企業に対しても十分な指導をもらい、消費者に対しても情報が一方的にならないようにしてもらいたいです。一方的ではない状況というのは、消費者に対して行うことを消費者が理解し、消費者からの意見等がある状態の事です。